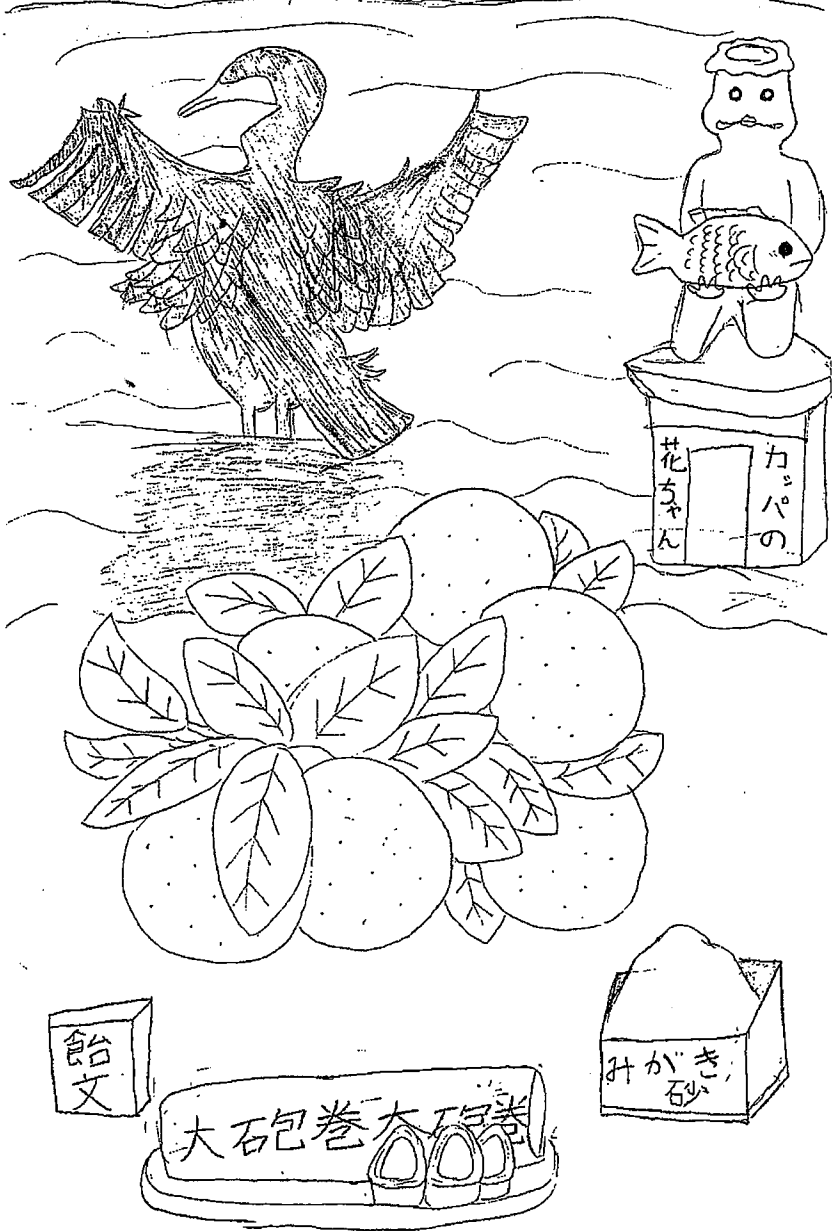


私たちの 布土



布土小6年生作

磨き砂について

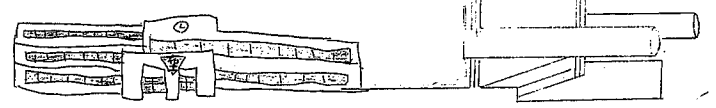
昔、布土では磨き砂をたくさんとっていました。磨き砂は日本全国だけでなく朝鮮半島にまで売っていました。だから、ものすごくもうかっていたのだそうです。布土の人たちは、もうけたお金で上村や平田の山車を買いました。また、布土小学校を建てるためにも使いました。ほかの地域の人から「布土は砂を食べて生きている。」というやましがられるほどでした。けれど、悲しいことに昭和6年には、一向山で落盤事故がおき、13人もの人が犠牲になりました。それでも、布土の人たちは、磨き砂を掘り続けました。磨き砂は、命をかけて掘り出すほど価値のあるものだったのです。

今は、磨き砂はもう売れません。だから布土は、少しさびしい所になってしまいました。

布土という地名は、磨き砂がとれたことに由来しています。山の方でとれた磨き砂を海まで運ぶときに道に白い砂がこぼれました。そのこぼれた砂が白い布のように見えたことから、ここは布土という地名になりました。



布土といえば、磨き砂
名前の由来も磨き砂
学校も山車も磨き砂



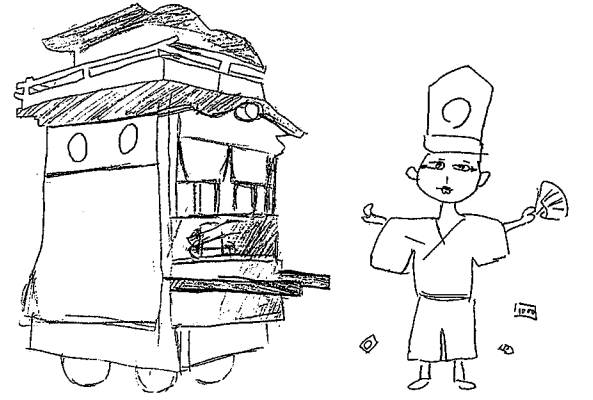
布土の祭り

布土では、春になると祭りがあります。布土地区にある大池組の山王車・平田組の天王車・上村組の護王車の3台の山車を使い、2日間祭りを行います。1日目は、お大日さんへ行、て、大池と上村をまわります。2日目は、心月齋でお花見をしながら、祭りを楽しまます。お祭りは布土にはかかせない大イベントです。

お祭りで行われる平田組と上村組の2台の山車は、みがき砂でもうか、たお金で買、たものです。平田組の山車は、1807年に常滑市大谷から、上村組の山車は、1849年に下半田から、大池組の山車は、1952年に上半田から買、ました。ですが、1959年におきた伊勢湾台風で大池組と上村組の山車がひがいをうけ、こわれてしまいました。平田組の山車は組み立て式だったため、ひがいをうけませんでした。それからしばらくの間、お祭りをや、ていませんでした。お祭りを再開したのは、大池組が1977年、上村組が1979年、平田組が1979年です。なので、1979年には20年ぶりに3台とも山車がそろい、以後35年以上続いています。

上村組の山車には、立川和四郎富重という彫刻師の名人が彫、た彫刻がついており、とても価値があります。平田組の山車には、金ばくやりゅうの様子がついています。そして、大池の山車では、さんばそうという、子供が山車の舞台の上でおどるイベントがあります。上村の山車には、カラクリ人形があります。さんばそうとカラクリ人形はお祭りを大いに盛り上げてくれます。子供から大人までが一生懸命かんば、て練習した演奏やイベントは、見ていてもおもしろいので、ぜひお楽しみください。

日には、四月の第1土曜日、日曜日です。



① 布土城と心月齋

昔、布土にはお城がありました。そのお城は布土城という名前で、水野忠分さんという人物が作りました。水野忠分さんは安土桃山時代の人で、徳川家康のおじさんにあたる人です。その城下だから、布土はこのあたりの中心地だったのです。

水野忠分さんは心月齋も作りました。心月齋は、水野忠分さんの領地(美浜東部・武豊・常滑南部)の中で一番えらいお寺でした。すごいですね。その後、忠分さんはいくさで大阪へ行っそこで七くなりました。忠分さんの遺体は大阪から布土にはこぼれ心月齋で火葬にしたそうです。心月齋の裏にはその忠分さんのお墓もあります。

② セルプアゼーリア

磨き砂のお金で建てた学校は今のセルプアゼーリアの所にありました。セルプアゼーリアは、障害をもった人たちが働く施設です。洗面台の部品を作ったり、パンを作ったり売ったりしています。施設長の藤原さんは「障害がある人は、不便なだけで、かわいそうな人じゃない。町で困っている障害者がいたら、ゆっくりした話し方で声をかけてください。」と教えてくれました。

③ 藤銀さん

藤銀さんは、今の店長さんのお父さんが始めました。今の店長さんは別の仕事をしていましたが布土のことが好きなので、布土に帰ってきてお店を継いだそうです。その店長さんが10円からあげをはじめました。小学生でも買えるように10円にしたそうです。この10円からあげがテレビにしたりあげられて、藤銀さんは有名になりました。店長さんは布土を有名にするために「フットチキン」という商品を考えて発売しています。フットチキンは手羽先と同じ味ですが、足に近い肉をつかっています。足だから、「フット」なのです。味も名前のおかげもうまいですね。

次はオススメの商品を紹介します。第1位は手羽先です。もちろんだんごもオススメです。手羽先はできたてが一番です。できたてはこんがりしてて、ジュージューで、肉にタレの味がしみこんでいるからです。学生の方には学割として最大で15円安くしてくれます。

④ 鶺鴒について

この布土では鶺鴒がたくさん飛んでいるすがたを目にすることができます。しかもその鶺鴒は、天然記念物にもなっています。

昔は、鶺鴒のふんを集めて肥料として売っていました。鶺鴒のふんは高く売れたので、すごく儲かりました。その儲け、たあ金で上野間小学校が建てられました。

今、鶺鴒がたくさんいる場所は、菅田池です。菅田池に鶺鴒を見に行きましょう。

⑤ 布土の水

布土小学校の下に水が出ている場所があります。言い伝えでは、ふつうの水が飲めなくなるほど体調が悪くなっても、ここの水だけは飲めるのだそうです。今は「水道水の基準に達していません」という看板が立っています。それでも、多くの人がここに水をくみにやっています。

⑥ 布土小学校

布土小学校は、昭和59年に今の場所に移転しました。その前は今のセルプアゼーリアの所にありました。今の学校は山の上にあるので、災害時の緊急避難場所になっています。

これを見た観光客の方へ、もし何か起こったら、布土小学校に避難してください。

⑦ 時志観音

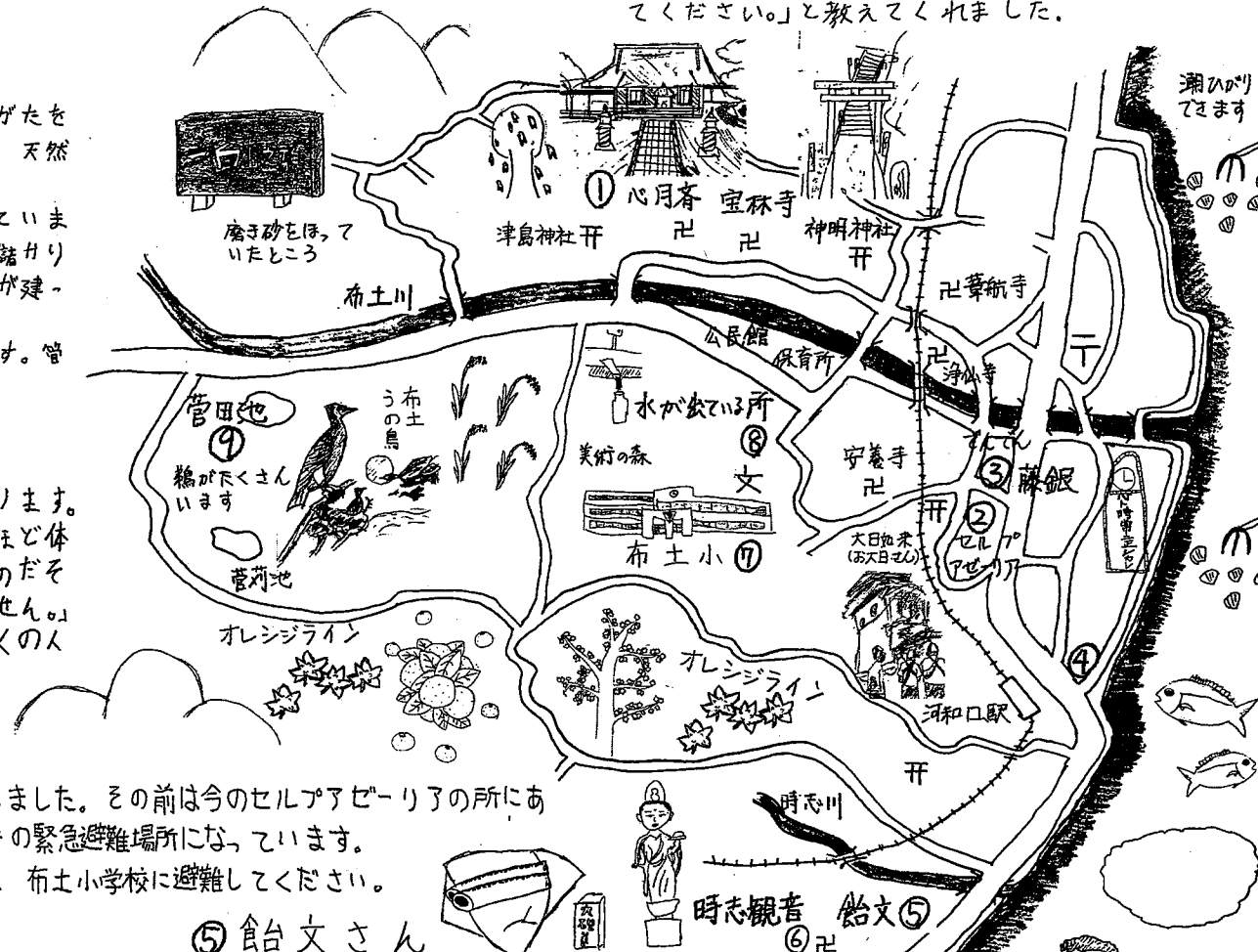
時志観音から見た景色はとても良く、そのため昔は多くの観光客が来て、大人気でした。ちなみに、時志観音の観音様は大昔漁師さんのあみに引かか、て、海の中から出てきたものだそうです。その観音様は安産に御利益があって、名古屋城のおとの様も安産をいのち、たら、みごとに元気な男の子が生まれました。その後、名古屋城のおとの様は時志観音をひいきにしてくれました。

おみそかには、かねならしたり、おまいりをしたりする人がたくさん来ています。大きな観音像もあります。もしよかったら、時志観音に来てください。

⑧ 飴文さん

飴文さんは江戸時代の創業で、今の店長さんで5代目です。「飴文」という名前になったのは、もともと飴を作っていた文えもんさんのお店だからです。もともと、布土の町の中にお店がありました。今の店長さんが海が好きなので、海が見える所にお店をうつしました。

大砲巻は日露戦争が終、たころに3代目の人が始めたそうです。今は大砲巻といいますが、昔はもっと短かくて、おだ巻といっていました。あんこ、ま、茶、白あんなど色々な味があり、どれもおいしくとても有名で絶品です。ぜひ食べてください。



④ カッパについて

河和口海岸・河和海岸・野間海岸にカッパ像が建てられたのは、昭和31年です。海水浴に来てくれたお客さんによろこんでもらうためでした。ミッキーマウスほどではありませんが、美浜町のキャラクターとして、カッパ像は大人気でした。

中でも、河和口の海岸にあるカッパの花ちゃん、は、国道から見えるので有名になりました。花ちゃんは、伊藤組さんが作、たものです。しかし、その後の伊勢湾で大きなひがいをうけたため、ていぼうが作られました。花ちゃんは、ていぼうのコンクリートにうまって低くな、てしまいました。かっぱ像が建てられた年には、第1回かっぱカーニバルが開催されました。大賑わいでした。カッパカーニバルは、名前が変わり、て今は、美浜海遊祭になってま、す。現在、河和口海岸で海水浴はわ、ていすもん、人は、す、た、く、ま、せん、が、花ちゃん、は、昔、の賑わ、て、い、た、こ、ろ、を、思、い、だ、し、な、が、ら、今、日、も、布、土、の、町、を、見、守、て、い、る、の、で、け、な、い、で、し、よ、う、か、?

